



たきいNOW



たきいNOWとは？

たきいNOWは、地域の皆様に滝井病院の「いま」をお伝えし、当院が提供する医療へのご理解を深めていただくことを主旨として発行しております。

コンテンツ

- ☆ 平成26年 ご挨拶
- ☆ 尿路結石症新時代の幕開け
- ☆ 救命救急センター新体制について
- ☆ 地域医療連携部医療福祉相談課の活動

2016年新本館オープン



※工事期間中も診療は通常通り継続いたします。

平成26年 ご挨拶



関西医科大学附属滝井病院
病院長 岩坂 壽二

明けましておめでとうございます。

本年も、滝井病院は人を愛し、病からの解放、夢のある生活を応援出来る病院を医師、看護師、薬剤師、トレーナー、臨床工学技士、事務職など1,024名の職員が一丸となって目指します。

2014年は新病院建設に向け、立体駐車場の6月完工を第一弾として、滝井病院は医療センターに急速に変貌する姿を見せます。

昨年にスタートしました医療機能の充実は、透析センターの午後からの運用開始、腹膜透析の増加に加えて、糖尿病グループによる腎臓保護活動と領域を広げています。PETセンターも悪性腫瘍の診断に威力を発揮し、外科手術、化学療法室、緩和療法室との連携も円滑さを増しています。消化器外科は吉岡特命教授を中心に安全・確実な手術を行っています。乳腺外科は3Dマンモグラフィと形成外科の卓越した乳房形成により女性に大きな福音になっています。中高年から増加する脚の痛みなどを引き起こす動静脈疾患、重症な大動脈瘤などの治療にあたる末梢血管外科。日本の宝と称される川副特命教授を擁する心臓血管病センターは、CCU、手術部、健康科学センターと連携し、中高年で増加する弁膜症、狭心症、心筋梗塞、大動脈瘤を治療します。結石治療センターは肝胆膵外科・泌尿器外科手術はもちろん結石形成予防も治療に応用しています。高齢者を苦しめる骨、脊椎疾患に全国からの医療見学者が絶えない整形外科。救命救急センターは救急車搬送の患者さんをお断りしないセンターとして活動を開始しています。次年度は血液専門の診療教授が選任され、きめ細かく全領域の疾患の診断・治療にあたります。

皆様におかれましては、すこやかで微笑みに溢れた1年であることを祈っております。

尿路結石症新時代の幕開け



結石治療センター長 室田 卓之 副病院長



結石治療副センター長 井上 貴昭 助教

尿路（腎臓・尿管）結石症は泌尿器科の中でも最も頻度の高い病気の一つであり、しかも再発する可能性が非常に高いもので、若い人から御高齢の方まで幅広くこの病気にかかる可能性があります。一生のうちに尿路結石にかかる頻度は、男性では7人に一人、女性では15人に一人と10年前に比べ約60%も増えています。また最近ではその原因として生活習慣病・メタボリックシンドロームとの関係も指摘されています。一方、尿路結石症は再発しやすい病気でもあり、腎臓の結石においてはその再発する頻度は3年間で30%、5年間で45%とも言われています。この腎臓の結石の再発を繰り返すことにより、腎臓の機能が低下するだけでなく、この結石を取り除く手術による合併症も無視できないものなのです。さらに比較的的患者さんにとって低侵襲であるESWL（体外衝撃波尿路結石碎石術）においても、最近では治療後の再発が問題とされており、さらにこの腎臓の結石へのたび重なるESWLの治療により将来、腎臓が小さくなるような（腎機能障害）例も少なくありません。また、他方では腎臓の機能の低下に伴う慢性腎臓病（Chronic Kidney Disease; CKD）を患うことによる心血管障害（心筋梗塞、狭心症など）の危険性が指摘されており、腎臓の機能をできるだけ温存する治療を選択することは今後とても大切となると思われます。

また尿路結石の中でも、腎臓の結石は無症状な場合が多く、健診・人間ドックで偶然見つかることも少なくありません。腎臓の結石は小さくて（<5mm）・症状がなければ経過観察されることも多いですが、約4年間で40%増大するとも言われており、無症状のまま置いておくと症状が出現する頃にはかなり大きくなっていることも稀ではありません。また尿管に転げ落ちた結石（尿管結石）に対する治療を行っても、腎臓に残った結石に対する治療は行われずそのまま再び経過を見られることも多く、患者さんにとっては再び訪れるかもしれない症状（突然の腰背部痛、血尿、嘔気など）という不安を持ったまま生活を送ることになります。

最近、そのような腎臓の結石を含めた全ての尿路に対する治療を可能にする手術方法である軟性尿管鏡を用いた経尿道的尿路結石碎石術（f-TUL）が注目を浴びています。この軟性尿管鏡とさらに細いレーザーファイバー（0.2mm）を用いることにより患者さん自身、また腎臓に対しても負担が少なく尿管結石、さらに同時に腎臓の結石も治療ができるようになりました。当施設では、このf-TULを2年前から始め現在までに300人の尿管・腎臓の結石の患者さんを治療しています。さらにこれらの治療を全身麻酔で行うことにより患者さんが眠っている間に手術を終えるようにしています。

現在、当院では治療を終えた患者さんに対して再発予防のための栄養指導・生活指導に力を入れており、患者さんのQOL（生活の質）を最も重視した治療を志し取り組んでいます。



救命救急センター新体制について



救急医学科部長 中 森 靖 教授

平成25年11月より発足致しました救命救急センターの新体制について説明させていただきます。新体制構築のため枚方病院より新たに3名の救急医が赴任しました。3名とも大阪大学高度救命救急センターや大阪府立急性期医療センターで豊富な臨床経験を積んでおり、実績は十分です。

“救急は医の原点”と言われます。私たちは患者さんが急性の疾病を患った場合や事故等により怪我をされたときに頼りになるような救命救急センターでありたいと思っております。これまではかかりつけ患者さんの救急搬送を当該科の先生に診て頂いておりましたが、各科の先生のあまりの多忙さのためにお断りせざるを得ない場合もあり、患者さんにご迷惑をお掛けしてきました。新体制ではかかりつけ患者さんの2次救急搬送は日中、夜間問わず原則全例受入れをし、救急医が診療を行うこととしました。救急医はあらゆる疾病、外傷に適切かつ迅速に対応でき、必要に応じて各科と連携しながら患者さんにとって最適な医療を提供することができます。入院が必要な場合は救命センターに入院していただき、適切なタイミングで各科へ引き継ぎを行います。

空床がない場合や重症患者対応中にはやむを得ず、受け入れできない場合もありますが、ご理解のほど宜しくお願い致します。

今後も北河内地区の3次救急医療施設としての責務を果たしてゆくことに変わりはありません。地域住民の皆様が安心して暮らせるように、最大限の努力をしてゆく所存でございますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



【地域医療連携部医療福祉相談課の活動】



地域医療連携部 メンバー
(前段) 医療ソーシャルワーカー

『こんなときは、私たちがお聴きします』

病気になると、健康なときにはなかった心配事や困り事がおこってくる場合があります。医療福祉相談課には4名の医療ソーシャルワーカーが在籍し、患者さんやご家族のご相談をお受けしています。

例えば・・・

医療費が心配

家族の生活のことが心配

病気



退院後の生活のことが心配

社会福祉制度や施設のことを知りたい

こんなこと誰に相談したらいいの？

医療ソーシャルワーカーは、社会福祉の立場からこのような生活上のご相談をお受けし、安心して療養生活を送っていただけるようお手伝いしています。

ご希望の方は1階の患者相談センターへお越しくくださるか、院内スタッフにお声掛けください（お電話や病室への訪問もお受けします）。相談は無料で、プライバシーにも十分配慮いたします。

どうぞお気軽にお立ち寄りください。

患者さん送迎用 無料巡回バスのご案内



バス時刻表（発車時刻）

① 滝井病院 北館玄関前		② 大阪市営太子橋今市駐輪場前				③ セブンイレブン守口京阪本通店			
7	50	7				7			
8	10 30 50	8	00 20 40			8	05 25 45		
9	10 30 50	9	00 20 40			9	05 25 45		
10	10 50	10	00 20			10	05 25		
11	10 30 50	11	00 20 40			11	05 25 45		
12	10 30 50	12	00 20 40			12	05 25 45		
13	10 30 50	13	00 20 40			13	05 25 45		
14	10 50	14	00 20			14	05 25		
15	10 30 50	15	00 20 40			15	05 25 45		
16		16	00			16	05		



関西医科大学附属滝井病院

〒570-8507 大阪府守口市文園町10番15号
TEL 06-6992-1001 (代)
HP <http://www.kmu.ac.jp/takii>

- 無料でご利用いただけます。●休診日は運行しておりません。
- 土曜日は滝井病院北館玄関前12時50分発が最終の運行となります。
- 道路事情によりバスの到着が遅れることがあります。
- 車イスをご利用の乗車はできません。●停留所以外での乗降はできません。